



2025年度第 6 号

2026年3月21日発行

補習校便り

チューリッヒ日本人学校補習校

<https://www.jszurich.ch>

<https://www.instagram.com/jszurich.hoshuko>

チューリッヒ日本人学校運営委員会
副委員長 陳 路

お祝いの言葉

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

しばらく雨の日が続きましたが、スイスでは雨上がりの空によく虹を見かけることがあります。雨でどんよりしていた気持ちも、遠くまで大きく伸びる虹を見ると、不思議と明るくなるものです。

虹は、太陽の光が空気中の水の粒に当たることで、赤や青、黄色などの色に分かれて見えます。おもしろいことに、「虹はいくつの色でできているか」という考え方は、国や文化によって違うと言われています。日本のように七色と数える国もあれば、五色や三色と考える地域もあります。どれが正しいというわけではなく、いずれもそれぞれの国や文化の中で大切にされてきた考え方です。

普段は現地の学校に通い、補習校で日本の言葉や文化について学ぶ皆さんは、複数の言語や文化に触れながら生活する中で、豊かな個性、いわば「自分だけの色」を身につけてきたことと思います。考え方によって虹の色の数が異なるように、皆さんの持つ色も、みんなと同じである必要はありません。得意なことや好きなことは、他の人と違って良いのです。自分と他の人を比べてしまうこともあるかもしれませんが、「色の数」や「色の濃さ」が異なっても、それぞれの美しい虹を架けることができるということを、どうか忘れないでください。

また、これから先、皆さんは多くの人と出会っていくことでしょう。自分の色を大切にすると同時に、他の人の色も尊重できる心を、いつまでも大切にしてほしいと思います。

最後に、補習校で友人たちと過ごした時間や、毎週通った教室の光景が、未来に向かって歩いていく皆さんの心に、いつまでも温かく残っていくことを願っています。皆さんの新しい旅立ちを、心から応援しています。



お知らせ

補習校運営規則

ご注意ください

入園・入学・編入学、退学等の手続き
(補習校運営規則 8条2項)

退学を希望する児童生徒の保護者は、
7日前までに所定の「退学届」を
校長に届けなければならない。

図書の返却について

新学期が始まる前に、ご家庭に
「学校図書の返却忘れ」がないか、
今一度、お確かめください。

* * * * *

読み終わった本は、必ずあった場所に
「立てて」・「背表紙を手前にして」
戻しましょう。



学校連絡システム Escola

学年変更に伴う登録手続き不要です。
4月からは、Escolaのみで連絡を
配信します。

感謝を込めて

ボランティアを引き受けてくださった保護者の皆様

芝刈り・運動会・学校教育活動・図書・和太鼓部・まつりボラ
ンティアの皆様、クラス保護者代表・副代表の皆様、そして、
全ての保護者の皆様に、学校教育活動と学校環境づくりにご理
解とご支援をいただきました。

子どもたちが充実した時間を過ごし、今年度も無事に終了でき
たのも、あたたかく支えてくださった皆様のおかげです。

心より感謝申し上げます。

寄附

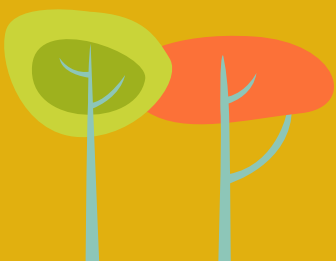
1名の方からご寄附を賜りました。
深く感謝申し上げます、有効に使わせて
いただきます。

相談窓口 ご活用ください

<文部科学省ホームページ>

24時間子供SOSダイヤル

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/06112210.htm



始業日お知らせ

始業日の授業

- ・特別時間帯
幼稚園・小学部
- ・通常時間帯
中学部1年生
他のクラス

新学期始業日

在園児と在校生は
入学式に参加しません。

入学式

＊月＊日の入学式には
土曜・水曜クラスの
新入生が
出席します。

個表内容の変更

- ・住所、メールアドレス、
現地校など記載事項に
変更がある場合、学校に
連絡してください。
フォームをお送りします。

保護者の皆様

- ・お子様の送迎は、基本校舎の外
(幼稚園・小学部1年は教室) とします。
- ・用がある場合は、校舎にお入りください。
- ・ 学校敷地内(正面・裏) への
車両の乗り入れと、
学校敷地付近への停車は
ご遠慮ください。

※欠席時の 宿題について

今まで郵送していましたが、2026年度よりデータ共有となり、封筒の提出が不要となります。
宿題を兄弟などに渡したり、事前に渡したりはいたしません。

詳しくは、
新年度にお知らせします。
封筒は返却します。

入学式と特別時間帯クラス時間割

掲載できません。
学校へお問い合わせください。



始業日に持ってくる物

ノートは学校で買えます 1冊3フラン

全学年	A 4 クリアホルダー (ファイル) 2 枚	毎回宿題やプリント類はこれに入れて提出してください。 クリアホルダーには、必ず記名してください。
幼稚園部	水筒、かばん(プリント類と水筒が入るもの)、クレヨン12色	
国際部	Bか2 Bの鉛筆5本、消しゴム、色鉛筆、漢字ノート2冊(漢字練習用)、 国語ノート2冊(日記用)、連絡帳(宿題を書くノート)	
小1	Bか2 Bの鉛筆5本、消しゴム、色鉛筆、国語10ますのノート1冊(授業用)、 国語12ますのノート1冊(日記用)、漢字50字ノート2冊(漢字練習用)、 連絡帳(野線のもの書きやすい。2学期から)	
小2	Bか2 Bの鉛筆5本、消しゴム、色鉛筆、漢字84字のノート2冊(漢字練習用)、 国語12ますのノート3冊(日記用2冊、授業用1冊)、連絡帳	
小3	HBかBの鉛筆5本、消しゴム、色鉛筆、漢字84字のノート2冊(漢字練習用)、 国語18ますのノート3冊(日記用2冊、授業用1冊)、連絡帳	
小4	筆記用具、漢字84字のノート2冊(漢字練習用)、国語野線15行のノート1冊、 国語18ますのノート2冊(日記用)、国語辞典、連絡帳	
小5	筆記用具、ノート2冊(漢字練習用)、国語ノート1冊、 国語18ますのノート2冊(日記用)、国語辞典、連絡帳	
小6	筆記用具、ノート2冊(漢字練習用)、国語ノート1冊、 国語18ますのノート1冊(日記用)、国語辞典、連絡帳	
中学部	筆記用具、ノート、国語辞典(電子辞書可)、蛍光ペン	

★ 小2以上 ノートは、前学年からの続きを使ってください。

★ 小学3年で国語辞典、小学4年で漢字辞典が必要となります。

学校推奨 国語辞典：学研「新レインボー小学国語辞典」や旺文社、講談社の辞典
漢字辞典：ベネッセの「チャレンジ小学漢字辞典」

(偕成社のものは、学校での学習方法とは異なるのでお薦めしません。)

始業日持ち物

- ・「始業日に持ってくる物」をよく読み、忘れ物がないようにしてください。
- ・国語辞典
(中学生は、電子辞書も可)
4年生からは、毎週持たせてください。

小学部以上 ノート購入希望

ノート購入ご希望の際は、次の手順で販売します。

- ① 封筒に「名前・ノートの種類・冊数・金額」を記入し、代金を入れて封をする。
- ② 宿題ファイルに入れて担任に声をかける。次回授業日、担任からノートを渡します。

欠席連絡

Escola「欠席機能」をご活用ください。

2026年度行事予定

2026年度校時表

2026年度教室配置図

掲載できません。
学校へお問い合わせください。



校内漢字総復習試験



校内漢字総復習試験が始業日に実施されます

第1回実施日：1学期始業日 授業時間内

小学2年以上は全員受験する。(国際部は希望者のみ)

第2回実施日：2学期始業日 授業時間外

6月に申し込んだ希望者のみ受験する。

1. 目的：この試験は、国語学習の基礎である漢字に興味を持たせ、漢字の学習意欲を高め、各学年で習う漢字を定着させ、さらに漢字能力を伸長させることを目的とするものである。

2. 試験とその手続き：試験は年2回実施する。

◎1回目ー全員が受験。

原則として自分が在籍する学年の試験を受ける。

(始業日に欠席の場合は、翌週の授業時間外10:20~11:00、11:00~11:40、16:10~16:50に受けることができる。)

◎2回目ー希望者が希望の学年の漢字総復習試験を受験する。受験希望者は、6月に担任から配られる申込書に必要事項を記入し、担任に提出する。

3. 試験の範囲：教科書巻末の新出漢字表から出題する。担任が漢字補充プリントを配付することもある。各学年の担任から詳しく説明があるので、指示に従ってください。

4. 合格点 70点以上

答案は後日返却される。返却された答案用紙は間違いを訂正し、再度提出する。



報 告

入賞・合格おめでとう

第9回スイス年賀状コンテスト

中等教育部門 日本賞

A・R

日本語能力試験 合格者

N1 高等部

L・M



第6回 運営委員会

2月13日（金）

- ・全日校・補習校それぞれの今年度活動報告や来年度年間計画について説明がありました。
- ・来年度児童生徒数や職員の動向、学校評価アンケート結果、対応についても報告がありました。
- ・来年度予算の提案と説明があり、審議されました。

算数科講習



1月31日（土）に、算数科講習が始まりました。16名が3クラスに分かれ、日本の算数教科書で、各学年の個別学習をしています。わかる、できることが増え、楽しく学んでいます。

学校ボランティア教育活動

講演「陸に上がった生物」

12月13日（土）、家庭科室で、チューリッヒ大学進化生態学研究所の清水（稲継）理恵先生による講演会「陸に上がった生物」が開かれ、児童生徒と保護者が参加しました。先生に実施いただく活動は、10度目になりました。

「生き物は海で生まれ、陸に進出した」ことや

「植物は自分の形を変えて、陸に適応した」ことについて、わかりやすい図を示しながら説明いただきました。

グラウビュンデン州にあるスイスで唯一の国立公園と高山植物について、美しい写真と共に紹介があり、参加者は興味深く聞き入りました。



進化の過程とスイスの自然について、日本語で学ぶ機会を与えてくださった先生に心より感謝申し上げます。

太鼓部 練習がんばっています

18名が保護者の支援を得て、中学生、高校生の指導により、昼休み、一生懸命新しい演目の練習に励んでいます。運動会での発表が楽しみです。



国際部中学年「世界の補習校交流」

香港補習校の提案で、「世界の補習校」オンライン交流に参加しました。香港・上海・ハリファックス（カナダ）・イスタンブール・チューリッヒの補習校が各学校や地域を紹介するスライドや動画を作成し、コメントを交換しました。

その一環で、10月18日と11月15日にイスタンブール補習校とZoomでクイズ大会や文化紹介を行いました。



高等部「補習校高等部ビブリオバトル世界大会」

今年度も、北米・欧州の8校が参加して補習校高等部オンラインビブリオバトルが実施されました。ビブリオバトルは、参加者が持ち寄った本を紹介し、いちばん読みたくなった本を投票してチャンプ本を選ぶ知的書評合戦です。

チューリッヒ高等部のクラス代表2名は、11月15日にミラノ補習校との合同学校代表決定バトルで発表しました。

2校27名による投票の結果、チューリッヒ補習校代表は一年生A・Bさん『駆け込み訴え』（太宰治著）に決まり、世界大会に出場しました。

世界の補習校高校生から発表や紹介した本について温かいコメントが届きました。



退任

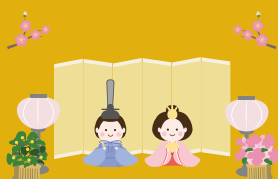
2025年度 休職



感謝を込めて

このたび、補習校の教員を退任することになりました。

3年間、この補習校で過ごした時間は、かけがえのないものでした。生徒の皆さん、先生方、そして保護者の皆さんには、たくさんの支えをいただきました。心から感謝しています。皆さんも夢や目標に向かって進んでください。皆さんの成長を心から願っています。ありがとうございました。



季節文化交流活動

<https://www.instagram.com/jszurich.hoshuko>
で、ご覧ください。

国際交流基金ケルン日本文化会館 日本語教育アドバイザー菊岡由夏先生見学

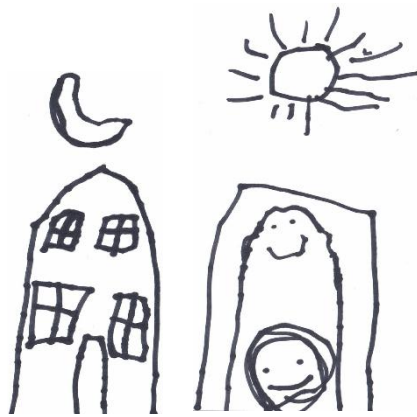
1月24日（土）に授業を見学していただき、子どもたちがクラス担任とよい関係で、楽しく学んでいるとの感想をいただきました。

今年度もありがとうございました。



子どもの広場

幼稚部二組



小学部六年一組

発見、日本文化のみりよく

日本には、「おもてなし」という相手思いやる気持ちがあり、日本の便利な文化にもつながっている。

例えば、コンビニが代表的な例だ。日本のコンビニは、小さなスペースに生活に必要な

ありとあらゆる物がそろっている。それだけではなく、食べ物には、食べやすい工夫や、季節に合わせて商品を変えるなどの工夫がされている。それに加え、ＡＴＭでお金を下ろせたり、生活のあらゆることをサポートしてもらえたりする。二十四時間営業でも、安全で店がきれいに保たれているのも日本ならではの。

日本以外にもコンビニはあるが、「お客様が困らないように」「忙しい人を支えたい」という考えから生まれた日本のコンビニは、日本のおもてなし文化がたくさんつまった日本のみりよくと言える。



日本には、「相撲^{すもう}」というおもしろいスポーツがあります。相撲は日本の国技で、長い歴史をもつスポーツです。

相撲では、ただ力が強いだけでは勝つことができません。相手の動きを読む力や、いつしゅんのチャンスをのがさない集中力がとても大事です。

去年の夏、家族で相撲を見に行きました。力士同士が激しくぶつかり合い、いっしゅんで勝負が決まるのを見て、とてもどきどきしました。会場全体に響く音や、周りの人が大声でお気に入りの力士を応援している様子も、はく力があっておもしろかったです。

勝負の後は、勝ってもおごらず、お互いに礼をして終わります。このように、相撲は単なる勝ち負けだけでなく、日本の伝統的で礼を重んじる、大切な文化だと思います。

日本には、お弁当というすばらしい文化があります。

お弁当のみりよくは、まず、ふたを開けたしゅん間にいいにおいがして、心がわくわくすることです。そして、色とりどりのおかずがきれいにならんでいるのを見ると、とてもうれしい気持ちになります。また、駅弁のように、その土地ならではの名物が手軽に食べられるのも、お弁当の大きなみりよくです。

そして何よりも、母が作ってくれるお弁当には、食べる人と思う愛情がこもっていて、私にとっていちばんのごちそうです。私の好きな食べ物がたくさん詰められた運動会のお弁当は、最高の思い出です。

このように、お弁当は小さな箱の中に、地域の味や家族への愛情が詰まった、日本ならではの大切な文化だと思います。

日本には、「和太鼓^{わだいこ}」という伝統的な打楽器があります。

一番のみりよくは、はく力のある音です。演奏をきくとドーンと体にひびき、勇気がわいてくるような力強い気持ちになります。

次に、だれでも楽しめる点です。たたき方で音の工夫ができますが、打てば鳴る簡単な楽器なので、小さな子どもでもすぐに始められます。

さらに、体をきたえられることです。太鼓をたたくには力が必要ですが、仲間と音を合わせるコミュニケーションも大切です。思い

切りたたくことで、ストレス発散にもなりま
す。

このように、和太鼓は音を体全体で感じ、
日本の心を表現できる楽器です。



日本には「和食」という文化があります。
いちばん伝えたいみりよくは、シンプルで素
材の味を大切にしているところです。「うま
み」を上手に利用した和食は、一度食べた
忘れられないおいしさです。

さらに、和食は栄養バランスがとても優れ
ています。野菜や魚など、体によい食材がバ
ランスよく使われていて、日本人が長生きす
る理由の一つかもしれません。

また、「旬」^{しゅん}の食材を大切にすることも忘
れてはいけません。春夏秋冬に合わせて、そ
の時期にいちばんおいしい食べ物を選びま
す。お正月には「お節」などの特別な料理を
食べて文化といっしょに楽しみます。
このように、和食にはたくさんのみりよく
があります。あなたもぜひ食べてみてください
い。

日本には、ルールをきっちり守る風習があ
ります。私は、そのみりよくを世界に伝えた
いと思います。

いちばん伝えたいのは、時間の正確さで
す。電車やバスが時刻表通りに動くのは、ス

イスではあまり見られない、日本ならではの
よさです。

次に、公共のマナーです。車内でさわが
ず、周りに迷惑をかけないという思いやりの
気持ち表れています。

さらに、ちつ序を守る態度です。大きな災
害のとき、アメリカでは略だつが起ること
もありますが、日本では決してありません。
どんなときも列に並び、ルールを守ります。
このように、互いを尊重してルールを守る
文化が、世界中に広がってほしいと思いま
す。

日本には、世界にじまんでできるアニメや漫
画^がという文化があります。

今では全世界でもとても人気があり、多くの
人が楽しんでます。ぼくもアニメを一話見
ると、続きが気になってしかたがなくなるこ
とがよくあります。学校でも、アニメや漫画
の話で盛り上がる友達がたくさんいます。
しかし、ぼくがいちばん伝えたいみりよく
は、そのものすごい人気です。世界的に有名
な「ハリー・ポッター」の売り上げを追いこ
して、日本の「ワンピース」のほうがより多
く売れています。「ワンピース」は、世界の
本の売り上げランキングでトップ十に入るほ
ど世界的に人気があります。
このように、アニメや漫画は全世界を夢中
にさせる、日本が世界にほこる文化です。



日本には「節分」という風習があります。
いちばん伝えたいみりよくは、楽しみな
が健康を願えることです。

ぼくが保育園児のとき、節分の豆まきをし
ました。おにの格好をした先生に、みんな
豆をまきました。先生がだれかをだき上げて
怖がらせようとしたときは、助けようとして
力いっぱい豆を投げつけたのを覚えていま
す。

また、豆まきの後には、自分の年の数だけ
豆を食べるといふ決まりがあります。これ
も節分ならではの楽しみで

このように節分は、豆を投げたり食べたり
して盛り上がりながら、自分や家族の健康と
幸せを願うことができる、日本に欠かせない
すばらしい伝統行事だと思います。

日本には、学校指定の制服がある学校がた
くさんあります。私は、この制服という文化
にとっても興味をもっています。

きっかけは、日本の漫画^{まんが}を読んだこと
です。漫画には、かわいいリボンやすてきな黒
いスカートの制服がよく描かれていて、とて
もうらやましく感じました。

制服は、私服と違ってみんなが同じ格好を
するので、公平だと思えます。それに、毎日
着る服を準備しなくていいのも便利な点で
す。

日本へ行ったときは、ぜひいろいろな人が着ている制服を実際に見てみたいです。



日本には「アニメ」という世界にじまんできる文化があります。

外国でもアニメはとても人気です。ぼくみんなに伝えたい一つ目のみりよくは、一度見ると夢中になって止められなくなるところです。ぼくはアニメの途中でトイレに行くと、続きが気になってどきどきしてしまします。

二つ目は、世界中で有名なことです。スイスの友達も日本のアニメ「呪術廻戦」が大好きです。

三つ目は、漫画まんがとしても読めるところで

す。ぼくは「名探偵コナン」や「ワンピース」を百巻まで持っています。漫画もよいですが、ぼくは、はく力のある映像が楽しめるアニメのほうが好きです。

このようにアニメは、世界中で愛され、ぼくをいつもどきどきさせてくれるすばらしい文化です。

日本には、「着物」という美しく伝統的な服の文化がある。

いちばん伝えたいみりよくは、どんなスタイルの人にも似合うということだ。絹ででき

た高価で美しい着物は、人々の目を引きつける。着物は、帯で体をしめるため、着ると自然に背筋がのびて姿勢がよくなる。そうすると、動作が上品になり、自分に自信がわいてくる。

現在は、結婚式や成人式などの特別な日に着ることが多いが、若い人たちが今でも着物を大切にしているのは、すばらしいことだと思う。

このように、だれもが特別な気持ちになれる着物という伝統が、これからも永遠に続いてほしいと思う。



日本には、「アニメ」という映画やシリーズなどがある。

いちばん伝えたいみりよくは、日本のアニメには、想像力に富んださまざまなすばらしいストーリーがあることだ。

次に、絵も上手できれいに描かれていることだ。さらに、グラフィックもすばらしく、私は日本のアニメを見るのが大好きだ。

例えば、私のいちばん好きなアニメは、「葬送のフリーレン」だ。まず、グラフィックがすばらしい。魔法使いのフリーレンは、弟子のフェルンと旅をしながら、事件を解決していく。はらはらどきどきさせられる事件を一度見始めると、もう見るのを止められなくなる。

このように、日本のアニメはすばらしいと思う。みなさんも、ぜひ一度見てみてほしい。

日本には漫画まんがという文化があります。いちばん伝えたいみりよくは、絵が細かく正確に描かれていることです。

私がよく読む「よつばと」は、人物が本当に動いているように描かれています。主人公のよつばちゃんが、ピザのサイズを目玉焼きくらいだと想像していて、実物を見ておどろく様子には、笑いが止まりませんでした。おいしすぎて食べ過ぎてしまう姿も、とてもかわいかったです。

よつばちゃんは感情豊かで、大切なぬいぐるみがこわれたらなみだを流し、楽しいときは全身で喜びを表現します。少しわがままなときもあるけれど、正直で真っ直ぐなよつばちゃんと、お父さんのやり取りがこの漫画の大きなみりよくです。

日本には、日本食というすばらしい文化があります。

いちばんおすすめしたい食べ物、ラーメンです。味には、みそやしょうゆ、とんこつや塩など、いろいろな種類があります。私がいちばん好きなのは、みそラーメンです。スープでは、母がおいしいラーメンを作ってくれますが、日本に行くときは必ず本場の味を食べます。

次におすすめしたい食べ物は、焼き肉です。自分で焼いて食べるのも楽しいし、つけて食べるたれがとてもおいしいです。でも、私の弟は焼き肉よりもお寿司が大好きです。私

はおすしがあまり好きではないので、レストラン選びでいつもけんかになります。最後は大体いつも私があきらめて、ゆずってあげることが多いです。

このように、私は日本食がとても好きです。みなさんも、ぜひ一度食べてみてください。



小学部六年二組

発見、日本文化のみりよく

日本には、漫画まんがという、世界にじまんできる伝統文化がある。

漫画は、昔から絵で物語を伝える方法として、絵巻や浮世絵うきよえに使われていた。

明治時代になると、新聞や雑誌に漫画がのるようになり、より多くの人に親しまれるようになった。昭和時代、手塚治虫てづかおさむという漫画家が登場し、「鉄腕アトム」などの人気漫画を作って、今の漫画文化が広まった。今では、漫画は日本だけではなく、世界中で楽しまれている。

私がいちばん伝えたい漫画のみりよくは、楽しくて安くて、どこでも買うことができることだ。

このように、漫画には、みんなを楽しませる心がある。そこにこそ、漫画の本当の価値があるのだ。

日本には、折り紙という、世界にじまんできる伝統文化がある。

約千年前、平安時代から親しまれている折り紙は、つる、手裏剣しゅりけん、かぶとなど、縁起のよいものを作れることで、知られている。これらは、折り紙の大きな特長だ。

しかし、折り紙の長所は、これだけではない。折り紙は、紙一枚で作品が作れる。はさみやのりは必要ない。また、折り紙は用意しやすい。

さらに、折り紙は技術がなくても作れる。このことから、初心者でも、始めやすく、取り組みやすい。

このように、折り紙は、一枚の紙を切らずに折って形を作ることができる。そこにこそ、折り紙の本当の価値があるのだ。



日本には、ふところ刀という、世界にじまんできる伝統文化がある。刀という男性の武器だと思う人が多いだろう。しかし、女性が持つふところ刀があるのだ。

こんなエピソードを聞いた。昔、生き別れた父親からもらったふところ刀を大事に持っていた女の子がいた。父親の名前も顔も分からない。父親を探す旅に出た女の子は、旅の途中で、出会った人が刀についているかざりを見て、父親ではないかと思われる人を教えてくれた。父親はその刀を見て、自分の娘だと分かったそうだ。IDカードがない時代にふところ刀が身分証明書代わりだったのかもしれない。

このように、ふところ刀には、いろいろな意味がある。心がある。そこにこそ、本当の価値があるのだ。

日本には、武道という世界にじまんできる

伝統文化がある。武道には、剣道けんどう、柔道じゅうどう、

弓道きゅうどう、すもう、空手、合気道、なぎなた、少林寺拳法けんぽうがある。

武道は、日本で生まれた昔の技がもとになっている。もともとは自分や仲間を守るためのものだったが、今は心を落ち着けたり、がまん強さを身につけたりするために行われる。

また、外国でもたくさんの方が日本の武道を学んでいる。ぼくもスイスで剣道を習っており、スイスの大会で優勝し、世界大会に行きたいと思っている。

ぼくは、武道のすばらしさを世界に伝えていきたい。日本の武道には、他のスポーツにはない心がある。そこにこそ、武道の本当の価値があるのだ。

日本には、お団子という、世界にじまんできる食文化がある。

お団子の一番のみりよくは、簡単に作ることができる点だ。なんと、縄文時代じょうもんじだいか

ら、お団子はある。おどろくことに、今と全く同じように米粉とお湯という材料で作られていた。

いちばん有名な団子は、みたらし団子だろう。みたらし団子は、白い団子を焼いて、しょうゆのたれをつけたものだ。もちろん、他の種類もおいしい。また、花見団子やあんこ団子も大人気だ。花見団子はよくアニメでも食べられる。お団子はどの季節でも食べられるが、季節ごとの特定のお団子は格別だ。例えば、春には花見団子が食べられて、夏にはみたらし団子がよく食べられるそうだ。

このように、お団子は、簡単に作れて、多くの種類がある。そして、季節を感じることができる。そこにこそ、お団子の本当の価値があるのだ。



日本には、だれもがあこがれる刀という、世界にじまんでできる伝統文化がある。刀は、昔の日本で使われていた武器だ。初めは鉄をうすくのばしただけの簡単な形の刀だった。後に刀作りの技術がよくなり、うでのよい刀工たちが、強くてよく切れる美しい刀を作るようになった。

平安時代から鎌倉時代には、日本刀と呼ばれる反りのある刀が生まれ、武士たちが戦いで使った。いちばん伝えたいみりよくは、身を守るだけでなく、心をきたえる大切な道具としても大事にされていることだ。

刀は、ただの武器ではなく、日本の文化を表す大切なものとして今も伝えられている。

このように、刀にはいろいろな意味がある。心がある。そこにこそ、本当の価値があるのだ。

日本には、和楽器という世界にほこる伝統文化がある。

いちばん伝えたいみりよくは、その音だ。和楽器の音はあまり耳にしない音だ。ピアノとは全く違う。日本の祭りや行事には和楽器は欠かせない。他にも伝えたいみりよくがある。それは音色の特ちょうだ。和楽器は、ゆらぎや、かすれのある音がある。それに、力強く「間」が多い。

「間」は演奏していない場所、音のない時間だ。

さらに、多くの和楽器は、木、竹、絹などの自然素材で作られている。

最後に、和楽器の種類についてしようかいする。和楽器には、びわ、三味線、ことなどの楽器がある。

このように、和楽器の音色には西洋楽器にはない独特のおもむきがあり、意図的に作り出される美しさとして認められているのだ。



日本には、世界にじまんでできる食化がある。すしは、もともと魚をお米といっしょに発こうさせて保存するための食べ物として生まれた。昔の日本では、川で取れた魚を長く保存するために、お米といっしょに発こうさせていた。

その後、江戸時代になると、今のよう^{えど}に生の魚をご飯にのせて、すぐ食べる「にぎりすし」が登場した。江戸（今の東京）で早く食べられるファストフードとして人気になったそう^だ。今では、世界中で愛される日本の有名な料理になっている。

このように、すしには、その地で取れる自然のめぐみを大切にいただこうとする心がある。そこにこそ、すしの本当の価値があるのだ。

中学部三年

卒業の言葉

在校生へ

私は、補習校に小学校一年生のときから通っている。今までのことを振り返ってみると、大変なことも、宿題が嫌になることもあったけれど、楽しくて、充実した学校生活だったと思う。

九年間、さまざまな経験をして、多くの楽しい思い出を作った。その中でも、特に楽しかった思い出は、中学三年の出来事だ。

運動会で、赤組の代表に選ばれた。夏祭りでは、授業の一環としてクラスのみんながゲームコーナーで接客をした。中学三年生になってから、できることが増えたと改めて実感した出来事だった。毎週ある漢字テストでは、クラス全員が五十点以上取ることを目標にしていた。五十点以上を三回達成できれば、カルタができるので、クラス全員が張り切っていた。

私がここまで通ってこられたのは、両親、いっしょに通ってくれた親友、同じクラスで共に授業を受けたクラスメイト、そして楽しい授業をしてくれた先生方のおかげだ。皆さん、九年間、本当にありがとうございます。



僕は、幼稚園から十年間、補習校に通い続けている。最初は両親が勝手に決めた「僕の習い事」の一つだったが、いつの間にか通うことが当たり前になっていた。小学生の頃は、宿題のことで母とけんかをすることもあったが、学校に行けば楽しいこともあり、辞めようと思わなかった。そのため、中学に進学するときも、迷わず通い続けることを選んだ。

しかし、中学の勉強は想像以上に難しく、現地校との両立は簡単ではなかった。週末はゆっくり寝たい、友達と遊びたいと思う日も増えた。それでも続けてこられたのは、補習校に通うことが僕の生活の一部として定着していたからだと思う。

そんな僕だが中学卒業という区切りに、補習校を辞める決心をした。新しく挑戦したいことがいくつも見つかったからだ。これは単に「土曜日の習慣」を捨てるということではない。これまでの経験を土台にして、一步外の世界で新しい学びを得たいと考えた結果だ。

これから始まる新しい生活の中で、自分のしたいことに少しずつ挑戦し、精一杯努力していきたい。

今日、僕は下級生に、日本人学校を長く、楽しく続けるコツを伝授したい。

それは、一生仲良くできる良い友人を見つけることだ。僕は、幼稚園年中から中学部三年の今まで十一年間、日本人学校に通っている。その中で、一番の友人は、小学一年からいっしょに通った。彼とは、母のおなかの中にいた頃からの縁で、同じ日に生まれる予定だった。彼が中学二年で職業見習いのために、学校を辞めるまで、ずっと同じクラスで、時には先生にうるさいと注意されながら、楽しく日本語で話した。難しくて面倒な漢字の練習も、音読も、今日はどちらのほうが上手だったか、点がよかったか、どんな発言があったかを話した。クラスで僕たちの他は女子ばかりのときも、彼がいれば、全ては楽に事が運んだ。

皆さんには、日本人学校で良い友人はいますか。もしも、まだ見つけていないなら、ぜひ見つけてください。学校が終わった後に、いっしょに遊ぶのもよいと思う。そして、一

生心に残る共通の思い出をぜひ作ってほしい。



私は、この日本人学校に通うことができ、本当によかったと思っている。最初、学校はとても楽しかった反面、不安も覚えていた。勉強が難しく感じたりして、学校を何度も辞めたいと思ったこともあった。

それでも、ここまで続けてこられたのは、両親や友達の支えがあったからだ。両親は、いつもいっしょに読書をしてくれたり、わからない問題を手伝ってくれたりした。そして、友達がいてくれたおかげで、毎週楽しく、学校に通えたと思う。

この学校では、勉強だけではなく、数々の思い出を作ることができた。学校の行事では、運動会がいちばん心に残っている。皆と協力し合い、そして、勝ったときの喜びは忘れられない。

また、この学校で多くの友達に出会うことができた。友達と過ごした時間はいつもとてもおもしろく、学校の楽しさを教えてくれた。辞めたいと思った気持ちを乗り越えたからこそ、こうした楽しい思い出ができたのだと思う。

この日本人学校で学んだことや経験したことは忘れない。そして、今まで支えてくださった人に心から感謝している。

国際部高学年

卒業の言葉

この国に来て五年が経つ。当時の私は日本語がほとんど分からず、挨拶や簡単な会話しかできないことで気持ちをうまく伝えられず、学校でも家でも孤独を感じることがあった。

そんな中で通い始めた補習校は、最初はとても長い時間に思えたが、次第に「学ぶ場所」よりも「楽しい場所」になった。

先生方は親切で、クラスの雰囲気も良く、多くの人と知り合うことができた。

私と同じように二つの文化を持つ仲間とは、似た経験や悩みを共有し、同じことで笑い合えた。自分だけが孤独ではないと気づいたとき、補習校は私の心が安らぐ場所になった。

日本語も少しずつ書けるようになり、完璧ではないが、自分の考えを表現できるようになった。先生や友達のおかげで、恐れずに話すことが自信につながった。

また、文化やルーツへの興味も深まり、母の故郷である日本の伝統や言葉についてもっと知りたいと思うようになった。補習校は、私に誇りと、自分の文化を大切に作る気持ちを与えてくれた。

もちろん負担に感じる日もあった。土曜日が平日の学校と重なり、疲れ果てて「今日は

中学三年間の補習校生活を振り返って、私を感じたことを伝えたい。

私が補習校に通ってよかったと思うことは、クラスメイトの意見を聞けたり、私の発表に対する感想を言ってもらえたりしたことだ。人の意見を聞くことで、視野が広がった。ええ、私自身の考えを改めることができた。また、クラスメイトと学ぶことで楽しく時間を過ごすことができた。

私の発表を聞いて友人が褒めてくれた。うれしかった。そして、自信をもつことができた。また、友人の意見を聞いて、自分の考えを広げ、深めることができた。

補習校では、家族以外の人と日本のことを話せる。これは、インターナショナルスクールでもできないことだ。他の家族も、日本の行事で、我が家と同じことをしていると知って、おもしろいと思った。

授業では、カルタ、カフート、百人一首などが皆でできて、楽しかった。運動会の徒競走で転んだときは、友達が慰めてくれた。このようなことは、私が一人で親や家庭教師と勉強をしていたら、経験できなかったことだ。

皆さんも、ぜひ補習校でクラスメイトとの意見交換を楽しんでください。

三年前、補習校の中学部に入学した日の緊張を今でも覚えている。日本では、インターナショナルスクールに行き、日本の学校に行かなかった。そのため、補習校でどんな人と出会うのか少し不安で、どきどきしていた。僕は自分からあまり話しかけるほうではなかったが、みんなは明るくて、すぐに僕に話しかけてくれた。間もなくクラスのみんななど、打ち解けて話せるようになった。クラスのみんなは、小さい頃から補習校に通っているようだった。その途中から僕が入ったけれど、みんな僕をすぐさま受け入れてくれた。

授業中は、意見を活発に交わした。みんなと仲良くなれたので発言もしやすかった。先生も朗らかで親しみやすかった。授業も心地よく聞いた。グループ活動で意見を交わしたり、カルタで競い合ったりして、とても楽しかった。運動会のリレーで、クラスの男子と競ったことはよい思い出になった。

ただ、途中で友達が一人、また一人と学校を辞めていったときは、取り残された気持ちになり、けっこう悲しかった。その分、今までの友達と仲良くなり、いい思い出を作りたいという思いが強くなった。早起きして学校に行くのは辛かったが、先生も明るく優しくだったので、ここまで続けられたと思う。このように、補習校を続けてきて、本当によかったと思う。



行きたくない」と思うこともあった。それでも授業後には「行ってよかった」と感じ、少し頑張った自分を褒めたくなった。

卒業を迎える今、寂しさと達成感が入り混じっている。補習校は日本語だけでなく、人とのつながりや自信、自分を大切にする心を教えてくれた。これから日本語を学び続け、自分の文化を大切にしていきたい。



僕が日本語補習校に通い始めてから、あっという間に十二年が経った。入学した頃は、宿題を毎週するのがとてもつらくて辞めようと思ったことや、土曜日の朝、眠くて登校するのが大変な日もあったが、それでも学校に通い続けてよかったと思う。

毎年恒例の秋にあるバザーや祭りでは、高学年になってから手伝う番になって、クラスでメロンソーダを担当した。最初はうまくいかなかったが、少しずつ味を改良していくのが楽しかった。授業の合間の休憩時間には、校庭で鬼ごっこをしたり体育館でドッジボールをしたりした。雪が降った日にはみんなで雪だるまを作ったり、雪合戦をしたりしたことも楽しい思い出だ。

最近では友達とだらだら話す時間も増えたが、そんな何気ない会話がとても楽しかった。補習校では日本語だけでなく、日本の文化や友達と

協力することも学んだ。これまで続けてきて本当によかったと思っている。

「僕を支えてくれた先生方、送り迎えをしてくれたお母さん、そして一緒に笑ったり、悩んだりしてくれた友達のおかげで、ここまで続けてくることができました。」

高等部三年

卒業にあたって

時間



毎週土曜日、お昼過ぎ。スイスに来てから今まで、何もないはずのこの時間が補習校によって失われた。しかし、週に一度しか会わない友達や先生と、なかなか濃い思い出を作ることができた。中でも、夏祭りは印象深かった。普段ならお祭りに行き、何かを買う側である私が裏方となり、小さい子や保護者に楽しんでもらう側になれたのは非常にいい経験だった。クラスメートや先生たち、保護者と協力し、出し物のうどんを最後まで売り切ることができたのはいい時間であり、私自身も楽しむことができた。このような行事や、たくさんの人たちと触れ合う機会を作ってくれる補習校は温かい場所だと感じた。

三年間、毎週通い続けるのは気が重いなどずっと思っていた私だったが、今となっては

あっという間で、一瞬の出来事だったように感じる。夏祭りだけでなく、通常授業や帰りの電車の中での会話など、当たり前のことが全てが、貴重だったのだと気づかされる。毎週土曜日の自由がすぐそこまで来ている一方で、何かを失う感覚で、複雑な気持ちもある。

在校生の皆さんには、今ある当たり前を大切にし、噛み締めて、長いようで短い卒業までの時間を、仲間や先生たちと過ごしていただいたいと思う。

私の補習校での十四年

私が補習校で過ごした時間は十四年。友達と支え合いながら成長し、人生の過ごし方も学んだ。

振り返ると、私の補習校生活は幼稚部から始まった。あの頃は、友達と過ごす時間が何より楽しく、人間関係を築く経験を積んだ。

小学部に進むと、初めて現地校と補習校の両立が始まった。幼稚部の頃に比べて遊びの時間は減り、漢字や国語の勉強の難しさを感じるようになった。しかし、その中でも、努力する大切さや、仲間と一緒に頑張る楽しさを学んだ。

中学部に入ったのは、ちょうど二〇二〇年の四月だった。新型コロナウイルスの流行により、授業はオンラインに変わった。友達と対面では会えず、パソコンの画面越しに授業を受ける日々が続いた。再び学校に通えるよ

うになったときは、少しずつ元の生活に戻る喜びを感じた。

中学三年生になると、私は男子ばかりのクラスに一人残った。最初は寂しさもあったが、様々な出来事の中で自分で考え、行動する力を身につけた。

中学部卒業後、現地校との両立を考えて国際部高学年に進んだが、次第に、自分らしくいられないと感じた。悩んだ末に、高等部へ転入し、自分の心を信じて道を選ぶ大切さを学んだ。

最後の高等部では勉強は大変だったが、ありのままの自分で過ごし、仲間に支えられながら楽しい時間を過ごした。

補習校で過ごした十四年間に心から感謝している。ここで学んだことは、これからの人生の支えになると思う。



十二年間の補習校

補習校に通って十二年がたち、私も、どうとう卒業する日が来た。

まだ私が幼稚園児だった頃、私の猛烈な反対を押し切って、母は私を補習校に申し込んだ。しかし、入学してみると、想像していたのとは違い、とても楽しかった。日本語を話せる新たな友人と知り合い、休み時間にはみんなで鬼ごっこや縄跳びをした。今でも思い

返せば、あの頃の楽しさと喜びが蘇ってくる。

確かに、いつも放置してしまう宿題や時間のかかる遠距離通学に嫌気がさし、泣くこともしばしばあった。しかし、それと共に、運動会や著名人の来校などの良いこともたくさんあった。これらのことがあったからこそ、今まで補習校を続けることができた。また、高等部に行けたのは、太鼓部でお世話になった高校生達に憧れを抱き、必ず自分も高等部に行くと固く決心したからだ。

気づけば、私はあつという間に高校三年生になり、卒業することとなった。現地校との両立は大変だ。学年が上がるほどテストも難しくなる。だが、今のうちに日本語の勉強を頑張っておくと、家族や日本の友人とも楽しく会話をすることができるよう。また、補習校に通うのが嫌になったときは、通って良かったことを思い出すと良いだろう。そうして、できるだけ国語の勉強を頑張ってほしい。

I先生、O先生、M先生、M先生、Y先生、T先生、N先生、N先生、M先生、太鼓部の皆さん、お母さん、お父さん、今までありがとうございます。

